令和７年２月２１日

令和６年度　東京都立府中けやきの森学園　学校運営連絡協議会提言

学校運営連絡協議会　評価委員長
横浜国立大学
教授　渡部　匡隆

令和６年度の学校評価アンケートの回収率は、児童・生徒は 84.75％で、前年度と比較して約 10％上昇している。その要因として、タブレット端末による回答、教職員による聞き取り方法の工夫があげられる。今後は、児童・生徒への聞き取り方の共通化を検討してほしい。保護者の回収率は 72.01％で、前年度とほぼ変わらない。回答をハイブリットで行い、デジタル回答は 86.57％、紙面回答は 13.43％と、ハイブリットで実施した効果は得られている。回収率を 80％以上に引き上げることが、今後の課題である。教職員の回収率は令和５年度に続き 100％である。

今年度の取組の成果として、次の３点が挙げられる。

１つ目は、個別指導計画において、各学習の目標やねらい、評価規準（３観点評価）を明確にし、各家庭への説明を行い、課題を共有できたことである（問４）。個別指導計画は、個に応じた教育の基本となるもので、特別支援学校においては、年度初めに児童・生徒の願いを聞き取り、それを基に個別の目標を設定している。その際、府中けやきの森学園では、３観点（「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に向かう態度」）を意識して目標を設定し、保護者に説明している。基礎・基本として身に付けた「知識・技能」を基に、児童・生徒が「思考・判断・表現」をすることがこれからの社会を生き抜いていくためには重要だからである。この趣旨を教員がよく理解し、面談等で保護者に丁寧に説明したことにより、保護者の満足度 91.5％を得られたと考えられる。一方、教職員の満足度は 75.3％と保護者よりも低い。教職員の満足度が保護者よりも低い理由や、教職員と保護者の満足度の差について分析し、保護者と教職員が共に高い満足度となるように取り組んでほしい。

２つ目は、学校だよりや学校ホームページを充実し、本校の教育方針や取組内容等を分かりやすく周知できたことである（問２）。昨年度の学校評価は、ＧＩＧＡ端末やスマートスクール端末の活用の推進、学校医、学校歯科医、学校薬剤師、保健所等と連携した健康課題に関する取組の満足度が低かった。これは、情報発信が十分でなかったことによると考えた。今年度は児童・生徒の様子、進路等に関する情報などの学校の取組を学校だよりや学校ホームページで多面的に写真等視覚的方法も多用して、リアルタイムで積極的に発信したことで 80.9％という保護者の高い満足度が得られたと考えられる。教職員の満足度も 84.5％と高く、情報発信の内容、方法が共有されていたと考えられる。

３つ目は、警察署や消防署、地域の企業等の関係機関及び各家庭と連携した安心・安全な学校づくりについてである（問８）。例年実施している総合防災訓練をはじめ、防災教育推進委員会や不審者対応訓練での警察や消防の方による指導・助言に加え、保護者の方にも参観してもらうなど、安全に関する取組が定着してきた。このことを教員が普段の連絡帳や学年通信等で共有してきた結果、保護者の満足度 84％を得られたものと考えられる。また、安全教育のことについて、児童・生徒が家庭で話題にしていたなどの自由意見も寄せられた。教職員の満足度も 92.2％と高く、真摯に取り組んだ実感が現れたものと考えられる。

課題として、以下の３点が挙げられる。

１つ目は、ウェルビーイングを目指し、児童・生徒が自分らしく成長していくための学びの充実の推進（問１）及び、ウェルビーイングを目指したＱＯＬの向上を図るカリキュラム・マネジメント研究の推進（問３）についてである。保護者会、学校だより等で目指す学校及び取組内容について説明を行ってきたが、保護者の満足度が 65.7％（問１）、60.0％（問３）にとどまり、「判断できない」が 30％を超えていることから、「ウェルビーイング」や「ＱＯＬ」という言葉が十分に伝わり切れていなかった、あるいは具体的に実感できなかったためと考えられる。また教職員の満足度は、77.3％（問１）、68.9％（問３）であり、新しい言葉や今までになかった取り組みについて、教職員の理解が十分に進まなかったことが考えられる。かつてノーマライゼーションという用語が提起されたときに、「地域化（脱施設化）に代表されるマクロな方向性については、その大筋において社会的なコンセンサスは得ているものの、障害のある一人一人の個別の問題については、実際にそれを現場でどのように適用しているのかと尋ねられるまでは、だれもが理解しているつもりでいる幻想的な概念の一つであると指摘されてきた。そのことを踏まえ、「ウェルビーイング」、「ＱＯＬ」といった概念を児童・生徒の学習や生活を関連して具体的に捉え、一人一人の成長や変化を通して「自分らしく成長していくための学び」、「ウェルビーイングを目指したＱＯＬの向上」の意味を理解できるように、学校研究の進め方や保護者との共通理解の進め方を検討する必要がある。

２つ目は、各授業における、児童・生徒の学びを深めるための、ＧＩＧＡ端末やスマートスクール端末の効果的な活用の推進についてである（問６）。保護者の満足度が 53.7％と最も低く、「判断できない」も 38.1％と高い。一方、これに関する自由意見は多く、保護者の関心が高いことがうかがえる。児童・生徒がどのように活用しているかを保護者が知ることができるよう、校内での活用の推進を図ると同時に、分かりやすく保護者に発信していく必要がある。また、児童・生徒が家庭にＧＩＧＡ端末、スマートスクール端末を持ち帰ることなどについて学校全体で検討し、有効な活用を進めていく必要がある。教職員の満足度は 71.2％であり、自由意見を見ると、もっと活用方法を知りたいなどの積極的意見も見られる。研修の機会を設け、好事例を教職員や保護者で共有していく中で、ＧＩＧＡ端末やスマートスクール端末の効果的な活用をさらに推進してほしい。

３つ目は、教職員が心身の健康を維持し、児童・生徒に向き合うことができるよう産業医、安全衛生委員会と連携した、教職員のライフ・ワーク・バランスの推進についてである（問 10）。教職員の働き方改革については、保護者評価の「判断できない」の割合が 40.2％と最も高く、保護者には判断が難しいと考えられた。その一方で、教職員の忙しさを心配する意見も多く寄せられている。教職員の満足度は 60.3％であり、業務の多さや偏りが課題という意見も上がっており、学校として業務の精選や割振りについて考慮していく必要がある。保護者に対しては、次年度から取り組む教育課程の編成などの具体的な働き方改革の取組を示し、働き方改革と授業力の向上の両立について理解を啓発する必要がある。

学校経営方針である「自分らしく成長していくウェルビーイングの実現」、「安全・安心な学校づくり」は、府中けやきの森学園に定着してきている。

今後も、府中けやきの森学園の教育が更に充実することを期待している。

以上、令和６年度、評価委員からの学校運営に係る提言とする。